

第167回くらしの植物苑観察会 2012年2月23日(土)

-風土記に見える植物-

(小倉 慈司(国立歴史民俗博物館 准教授))

奈良時代、朝廷の命によって諸国において『風土記』と呼ばれる地誌が作成されました。現在までまとまった形で伝わっている『風土記』は、常陸・出雲・播磨・豊後・肥前の5か国のみで、あとは逸文として伝わる程度ですが、これらの中には古代の植物に関する記事を多く見出すことができます。そこで今回は、これら『風土記』の植物記事の中から幾つかを取り上げて紹介します。

『風土記』には、それぞれの国の産物を記すことが求められました。したがって、食品のほか、薬や染料の材料となる植物についての記載が多く見られます。『風土記』に掲げられた物品は、調庸などの貢納物として朝廷に納められることになりました。



左：栗 右：栗

『風土記』には伝承・説話も多く記されていますが、その中にもしばしば植物が登場します。現代から見て、「なるほど」と思うものもあれば、なぜそのように考えたのかよくわからないような伝承もあり、様々ですが、それらを読み解くことによって、古代の人々の生活や環境、心性に少しでも近づくことができると考えています。



クララ



ヤマシャクヤク

.....

次回予告 第168回くらしの植物苑観察会 2012年3月23日(土)
 「春を告げる華花―祝いと祈りの草木たち―」 辻 誠一郎(東京大学大学院)
 13:30~15:30(予定) 苑内休憩所集合 申込不要